

いき活かわら版

北九州市「いきがい活動ステーション」(いきステ)の月刊情報紙

第52号

2022年1月6日

発行
いきがい活動ステーション

「食べ物」の命は人の命 こども食堂で街を「家族」に

八幡東区の中央区商店街で昨年より、子どもたちといろんな遊びをしたり子ども食堂を開いたりして楽しむイベント「子ども食堂ちゅうおうまち食楽福亭」が始まりました。「世代を超えた交流でフードロスなどの環境問題や地域の孤立化などの社会課題を改善できれば」というのが出发点。中心となって活動している原田昌樹さん(56)は「同じ街の住人はみな家族。小さなお手伝いの結集で魅力的な街をつくりましょう」と呼びかけています。名付けて「わがまち大家族プロジェクト」。あなたも「私にもできるまちづくり」に参加しませんか？



▲「たらふく亭」で進行役を務める原田さん

■ みんなで遊んで 楽しく昼ご飯

昨年12月4日(土)、八幡中央区商店街のふれあい広場で第2回食楽福亭が開かれました。たくさんのお学生や幼児が集まり、電池作りや木



▲大学生に手伝ってもらって木工工作する子どもたち

工工作、風船遊び、お菓子釣りゲームなどを楽しんだ後、地元のお母さんたちが作った親子丼をおいしく食べていました。このイベントは原田さんたちのグループのほか、地元商店街、九州国際大学、九州電力など多くの団体、大学、企業などが支援協力していて、ボランティア参加の商店主、学生、会社員なども子どもたちと楽しく交流していました。毎月第一土曜日に開催し、参加する企業、団体も増やしていく予定です。

■ 「もったいない」を 「ありがとう」に

原田さんは若い頃、自らの家庭環境などの理由でさまざまな辛い経験をしたことから、キリスト教牧師となつてホームレスなどの恵まれない人に手を差し伸べてきました。そうした人を自宅や近所に借りた家に住ませて世話する中で、子ども時

代にこそ食事や愛情などが十分に与えられる生活環境を整えてあげるべきだと考えました。そのための食料調達に奔走するうち、あるスーパーの店長が賞味期限間近の商品や売れ残り食品の提供を申し出ました。そのとき、食べられるのに捨てられる食料の多さを知った原田さんは「食べ物」と人の命はつながっている」とこに気づきました。そして「もったいない」を合言葉に、捨てられる食料を恵まれない人に届けるNPO法人「フードバンク北九州ライフアゲイン」を結成し、子ども食堂を開設・運営したほか、食料を家庭や施設へ配達するかわら啓発事業も展開しています。

■ 「わがまち大家族」 プロジェクト

その一方で、地域と住民、行政と企業・大学などが協力して子どもたちを育むシステム「わがまち大家族プロジェクト」を構想しました。そして、子どもたちに大人とのコミュニケーションと楽しい食事の時間を提供したいと周囲に働きかけました。すると、街の活性化のために商店街でさまざまなイベントを続けて



▲ゲームなどを楽しんだ後はおいしい食事

■ SDGs 実践の街に

食楽福亭は、単に子どもたちと遊び、食事をするだけが目的ではありません。そこに集まった大人や子どもが顔見知りになり家族のようになること。その家族を行政や企業・大学が支えて、産・官・学・民の力であらゆる「分断」を無くすこと。そしてすべての住民が楽しく生活すること。「それこそいま世界が目指しているSDGsの姿。それを支えるのは、誰にでもできる小さなボランティア活動です」と訴える原田さんの夢は、その成功例として全国的なモデルになり、多くの人が八幡を訪れることだそうです。

いる「中央町連絡協議会・結」が共感。関連する個人、団体、まちづくり協議会、商店、企業、学校などが次々と加わって実行委員会が結成されました。そして去年11月6日(土)に第1回を開催することになり、原田さんの構想がスタートしたのです。

